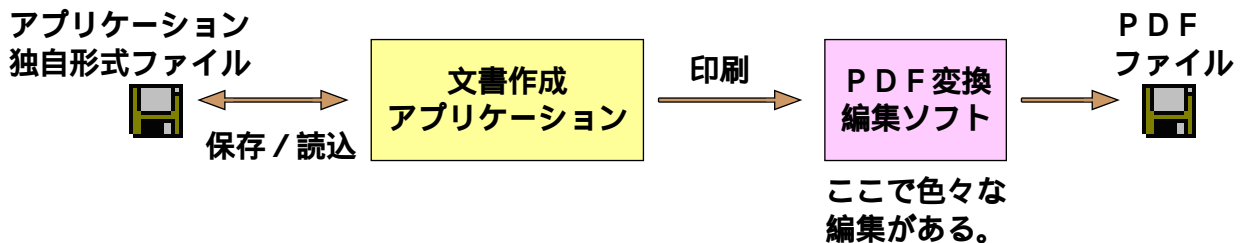


なぜ標準のフォーマットをPDF形式にしているのですか？

通常のドキュメント作成ソフトの多くは独自のファイル形式を持ち、そのファイルをダブルクリックすれば自動的に編集用のアプリケーションが起動するというのが、AppleのMac OSに始まり、現在はMicrosoftのWindowsにも採用された方式です。これは、OS設計者の立場から見れば「してやったり」の機能かもしれませんが、ユーザサイドから見れば数々の弊害を生じています。ファイルフォーマットを自由にしている為に、メールなどで受け取ったデータを閲覧するのにそのアプリケーションを必要とします。インターネット上に存在する「拡張子辞典」の様なデータを見る度にこれは「ユーザの悲鳴だ」と感じる次第です。

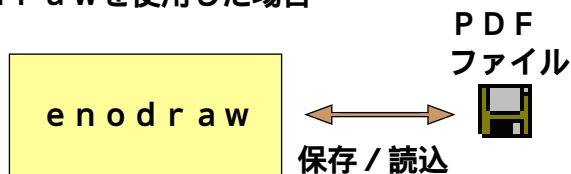
その閲覧性の問題を解決したのがPDFファイルです。PDFに変換する事により、どんなOSでもレイアウト通りに閲覧/印刷できるので、特にEメールでのやりとりには重宝します。ただ、このPDFファイルの場合、中間ファイルを管理してゆくのが大変です。以下の例ではPDF変換ソフトを使用した事例とenodrawを使用した事例を比較しています。

PDF変換ソフトを使用した場合



PDF変換ソフトは1方向の為、PDFを作成する為に使用したすべてのファイルを、永久保存し、管理して行かなければなりません。もしPDF変換ソフト上で、しおりやリンクの編集を行う場合はもっと大変で、文書を変更する度に編集をやりなおさなくてはなりません。そのような場合、文書は簡単には更新されなくなる為、しおりやリンクを設定しなくなったり、文書の品質が低下する事になります。品質が低下すれば文書が腐敗し見られなくなり、電子ゴミと化する。この連鎖はまさに悪循環です。

enodrawを使用した場合



enodrawでは保存するだけでPDFファイルが出来て、そのまま読み込む事もできる為、中間ファイルは必要ありません。またしおりやリンクの設定もプロパティーとして保存されるので、これらの設定をやり直す必要がありません。なによりもファイルの一元化によるメリットは計り知れません。PDFファイルをインターネット上のサーバに置いているならば、編集したいときに読み込んで編集、そして保存してサーバに書き込む。つまり端末パソコンにファイルを置かないという使い方もできます。

以上のようなメリットから、PDFを標準のフォーマットにしています。これによりアクロバトリーダーと拡張子が同一になり、エクスプローラからダブルクリックで起動することはできませんが、右クリックの「enodrawで編集」を選択すれば起動できます。

